

お元気ですか

発行所・(福)横浜市社会福祉協議会
障害者支援センター

〒222 横浜市港北区鳥山町1752番地
-0035 横浜ラポール3階

TEL045(471)0556・FAX045(471)0559
http://www.yokohamashakyo.jp/siencenter/

編集発行人・沼尾 雅徳

2008/12

グループホームの新展開を目指して

入所施設待機者調査に関するシンポジウム開催

「入所施設待機者調査」報告書(平成二十年三月)

をふまえたシンポジウム(三回シリーズ)の二回目が、去る九月二十四日に開催された。今回は、回答者数約二、五〇〇人のうち約一、〇〇〇人の家族が希望した「グループホーム」がテーマで、参加者は二百二十一人だった。

長野県西駒郷の取組み

「すべては障害者本人に聴くことから始まる」シンポジウムに先立って行われた講演の中で、山田優氏は何度となくそう語った。山田氏は、長野県駒ヶ根市にある県立施設「西駒郷」の地域生活支援センターで、地域移行に携わり、現在は愛知県と長野県の障害者相談支援体制整備推進アドバイザーである。

同氏は「私の経験では、施設入所者のほとんどが自分で希望して入所したわけではなく、一方で過半数の方が退所したいと思っている。ですから本人に聴きその意向に沿って地域移行を進めた。民間法人の協力を得て、七割の方が故郷近くに帰った。その結果、西駒郷周辺に城下町のようにグループホームが集中せずになった」という。さらに山田氏は「グループホームへの移行はゴールではない。地域生活はそこから始まる。だから様々な問題も起こり得る」という。そのため長野では県内十圏域に総合支援センターを設置、相談支援スタッフ(現在計百四十一名)を配置し、グループホームを圏域の資源と捉えて一貫した地域生活支援に当たっている。障害者自立支援法により設置された自立支援協議会でも、相談支援スタッフらが把握している課題を共有し、協議する場として機能し

ているという。

調査報告書から

「横浜では平成十四年頃に施設入所者数とグループホーム入居者数が逆転した。これは画期的なこと。現在は市内所在の施設入所者が一、一〇〇人、グループホーム入居者が一、七〇〇人となっている」シンポジウムのコーディネーター神奈川県立保健福祉大学教授谷口政隆氏はこのように口火を切った。

冒頭、県立保健福祉大学専任講師の在原理恵氏が「日中通所先のある方に調査をしたにも関わら

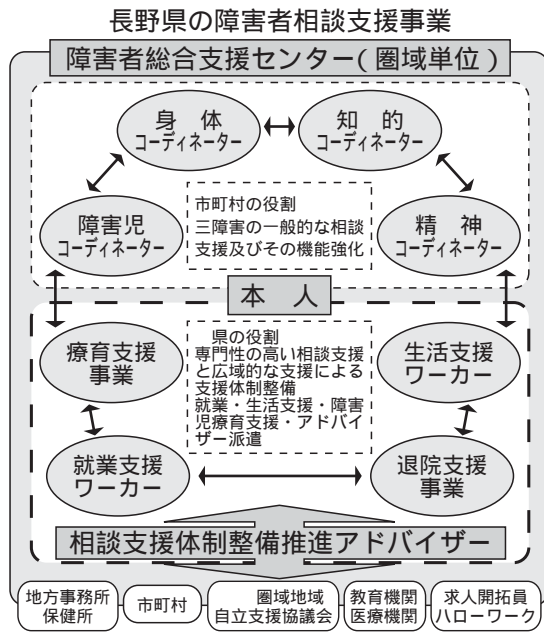
ず、三割の方が「相談できる人がいない」と答え、またそういった方ほど、将来の暮らし方について施設を希望していたり、「わからない」と答えたりしていることがわかった。また通所先がグループホームを作ろうとしているか否かによって将来の暮らし方も左右されるとともに、運営法人等も自分たちで作る以外に途がない状況に置かれている」と今回の調査結果の概要を報告。

もはや日中活動だけでは…

作業所連絡会会長の佐藤文明氏は、「もはや作業

望遠鏡

今年も、年末のご挨拶をする頃になってしまった。▼七十年以上も生きてると様々な一年を送らなければならぬのだが、今年ほど後味が悪い事が続いた年も珍しい。大きく言えば世界的に自壊の年だったのではないかと。▼高度成長という言葉だけは結構だが、結局、金持ちが金にまかせて滅茶苦茶な行為を行った結果が、私たち障害者の様な社会的に非力な者が一番厳しい状況に追い込まれたということなのだろう。私が憤りを覚えるのは自分で社会を壊しておきながら「オレジャナイヨ」と知らん顔している事。それに対して何も感じようとしない人々の「カンヨウ」さなのだ。▼社会の自壊的現象は各方面に様々な影響を与える。本当に残念だが私たちの側にもそうした現象の影響はあったと思う。「今更ながら」と言われそうだが私としては自分を含めて自壊行為のない一年を送りたいと思う。



(横田弘 障害者支援センター運営委員・日本脳性マヒ者協会「青い芝の会」)

所も日中活動のことだけを考えては、地域生活を支援できない。暮らし全般に目を向ける必要がある。また調査結果では『グループホームにはどうしたら入れるのか』空き情報はどこに行けばわかるのか』という声が目立った。グループホームの絶対数が不足していることが根本的な課題だが、グループホームの情報を共有したり、体験入居を十分行う中で地域生活に備える仕組みも必要だ』と新たな提案を行った。

現場から

守る会連盟代表の八島敏昭氏は、運営委員会型（A型）のグループホームを運営してきたが、「A型ホームは地域の方も運営に参画いただいているため地域の中で孤立しないで済んでいる。また親自身が運営に携わることで、地域生活の良さや大変さを理解することができ。ただし親がいつまでもがんばられるわけではないので、このよさを生かすための仕組みも必要」と述べた。

重度障害者の地域生活

一方法人運営型グループホーム（B型）については、てらん広場施設長の斎藤喜美夫氏が説明した。てらん広場では、平成四年開設以来約二〇〇人の方がグループホームへ移行したが、人材不足の深刻さを訴えた。

行政の立場から

調査では「重度障害者はグループホームには入れず、入所施設しかない」という回答が多かった。グループホーム連絡会会長室津滋樹氏は「横浜では重度障害者もグループホームで暮らしている。医療的ケアの必要な方を、医師や訪問看護師等と連携して支えている例もある。ただし医療的ケアについては制度的な充実が必要だ」という。

横浜市健康福祉局の桑折良一係長は「市の中期計画では昨年度末時点のグループホームの整備目標は四百二十カ所であったが、実績は三百九十八カ所で下回っている。グ

グループホームの新展開を目指して

グループホームの量・質の確保と同時に、この日明らかになった課題は、十分な期間をかけて体験入居を行うといった地域生活に備える準備活動や、グループホームの新設や、空き情報を共有する仕組みが必要で、また積極的に取り組んでいる運営主体の周辺にのみグループホームが集中していることがあげられた。

来場者のA型グループホームの職員から、グループホーム開設に当たり、周辺区のケースワーカーや相談支援機関に出向いて、入居希望者の情報交換を重ねながら入居者を決定した事例が報告されたが、室津氏も、設置主体の枠を越えて入居できる仕組みが必要で、自立支援協議会が本来の機能を発揮する等、区内の連携を充実するとともに、地域の「住み替え調整」

の役割は障害者支援センターに期待したいと述べる。

また谷口教授は、精神障害者の退院促進のための事業は、昨年から国レベルで始まっているが、障害者全体の制度とはなっていないため、地域移行を進める専門の「住み替えチーム」の設置について改めて提案し、「横浜でグループホーム制度を作り始めた時も、研究委員会を設けて取り組んだ。現状の課題を踏まえるると第二次研究委員会を作る必要がある」と議論を締めくくった。

※なお当日の様子を記録したVTR・DVDを貸出ししています。障害者支援センターまでお問合せください。



長野県から山田優氏を招いてのシンポジウム



えくぼクラブ 関口 美樹さん (18才)

わたしは、音楽を聴いたり、歌ったり、楽器を演奏することが大好きです。

いつも、アンジェラアキ、福山雅治、Bz、ゆず、島谷ひとみ、コブクロ、中島美嘉、絢香の曲を聴いたり、家族でカラオケに行ったりします。

学校でクラスのみんなど行なうカラオケではサザエさん、ちびまる子ちゃん、セーラーMoon、ピンクレディの曲を歌います。楽器は、フルート、ピアノを演奏することができます。フルートは、学校の授



練習に打ち込む関口さん

業で一年間習っただけですが、ピアノは、小学校一年の時からずっと習っています。毎年発表会にも出ています。今年の発表会では、シューベルトの即興曲を弾きました。この曲は、今一番気に入っている曲です。今はペーターベンのソナタを練習しています。

学校を卒業しても、ずっとピアノは続けていきたいと思っています。そして、ピアノ以外の、もっといろいろな楽器も演奏できるようにになりたいです。

地域に向けて！作業所等から発信

地域作業所等では、地域の皆さんへの日頃の感謝を込めて、また、交流をさらに深めようと様々な形で貢献活動に取り組んでいる。

今回は地域に向けた取り組みを行っている三カ所の様子をレポートする。

■ベルマークを集めよう

鶴見区にある地域作業所Peaceでは、来年近隣の小学校に寄付するためにベルマークを集めている。この活動は、今年三月、メンバーミーティングで提案され始まった。メンバー五人でベルマーク委員会を設置し、職員とともにベルマークの掲示物を作成したり、月一回のミーティングで収集状況を報告する等している。委員会の働きかけもあり、当初、この活動には消極的であったメンバーも今ではベルマークの付いている商品を購入する等、皆一体となって取り組んでいる。ベルマーク委員の宮田照康さんは、「作業所からお願いをするば

かりではなく、互いに助け合える関係を作りたい。良い関係を積み上げていくためにも、他の作業所でやってみてほしい」と語った。

■街をきれいに



作業に取り組むベルマーク委員会の皆さん

磯子区にある障害者地域作業所カナン工房は、屏風ヶ浦駅前に位置している。作業所の前の道には、たばこの吸い殻やゴミが多く捨てられ、近隣住民の方々も大変困っていた。このような状況を毎日目の当たりにしていたメンバーから「ゴミを拾おう！」と声が上が

り、四年前から取り組みがスタートした。活動頻度は定期的ではないものの、今では、ゴミが捨てられていないか気にしながら

通所するメンバーもおり、皆の中に根付いた活動となっている。メンバーの金子節子さんは「清掃活動をしていると街がきれいになって気持ち良けれど、ゴミを捨てる人は絶対に許せない。きれいになるまで続けたい」と訴えた。作業所の近くで青果店を営む川崎さんは、「皆さんの活動を見てみると気持ちが良い。昔に比べるとゴミも減って大変助かる」と話す。また、所長の伊藤さんは「何かを得ようと思

い、始めた活動ではないが、地域の方々と良い交流になっていると思う。他の作業所とも連携してこの活動を広げたい」と語った。

■地域の安全を守ろう

昨年四月、泉区に地域活動支援センターひとつの芽が開所した。ここでは、地域の安全を守るためにメンバーと職員が近隣の住宅街をパトロールしている。

ひとつの芽では、開所して間もなく地域との交流を図る上で何か役立てないかと自治会長と相談

し、住宅街が多い地域性であることからパトロールを行うことになった。「防犯パトロール」と文字の入った黄色いジャンパーをまとい毎週火曜日、地域を巡回している。メンバーの露木明さんは「地域の人たちに喜ばれている活動だからやりがいがある」と話した。また、同じくメンバーの大久保淳さんは「皆さんも留守の時はちゃんと鍵をしめて気をつけて下さい」と注意を促した。パトロール中は地域の方々と挨拶を交わす等良い関係性が築かれている。所長の萩原さんは「メンバーが地域のために積極的に取り組んでいる様子は遅く見える。今後も地域の皆さんに貢献していきたい」と語った。



ただ今パトロール中

第二十二回 守る会連盟 福祉大会開催

去る十一月十六日、横浜ラポールシアターで、横浜市心身障害児者を守る会連盟主催の福祉大会が開催された。

今回は一部の式典に続き、二部で「うすいまささんのコンサート」と講演が行われ会場は満席となる三百名以上の参加者があった。

式典では、八島代表幹事のあいさつ、事業報告が行われた。二部を挟み最後に、当事者、家族が地域で安心して暮らしていけるよう「福祉大会宣言」が読み上げられ承諾された。

この日は、全九曲を歌い、その中の「脳の歌」では、脳のユニークなキャラクターを描いた映像を加え、また、講演でも映像とともに発達障害など障害のことを楽しくわかりやすく伝えた。うすいさんは「これからもしっかりと歌っていかねければ」と優しくも引き締めた表情で話す。



あいさつをする八島代表幹事

二部は、「うすいまささんと」のコンサート



講演中のうすいさん



「脳の歌」を歌ううすいさん

子どもとお母さんの笑顔を作る障害児地域訓練会 旭区・めばえ会の活動

「障害児地域訓練会」をご存知だろうか？現在、横浜では七十二の訓練会が、幼児から高校生までの障害のある子どもたちの活動の場として、また親の自主的な活動と仲間作りの場として、大切な役割を果たしている。この制度が始まったのが昭和四十八年。三十五年の節目を迎えて、その活動と、関わる皆さんの思いを紹介する。

■めばえ会の活動
めばえ会は、旭区の地域訓練会だ。設立は昭和五十四年。今は相鉄線鶴ヶ峰駅近くの障害者地域活動ホームあさひを会場にして、週に二回「協力者」と呼ばれる地域のボランティアと活動をしている。現在の会員は、主に二歳から四歳の就学前の子ども達が十五人だ。

活動は設立当時から変わらない。朝一〇時に始まり、「朝のあいさつ」、体操や平均台等の運動、マッサージ、楽器遊び等をする。その後お母さん達は話し合いをし、子ども達は協力者と過ぐす「母子分離」の時間となる。子ども達はこのままお弁当も協力者と一緒に食べる。そして、十三時頃解散だ。

めばえ会を卒会した後には、「旭区地域訓練会」があり、学齢期の子どもたちが活動している。「親の会」もあり、子どもが成人しても情報交換や仲間づきあいができる。

■お母さんの思い
現在、めばえ会の「親の会」に所属している山本さんは、設立して間もない頃からの会員だ。山本さんの息子さんは現在二十七歳。幼児の頃、神奈川県立こども医療センターからめばえ会を紹介された。めばえ会の一歩の特徴は、子どもと親・協力者達の穏やかなつながりの中で、寄り添いながら育ちあう、もう一つの家族のようなものと山本さんは言う。「親の会」は、いつも大にぎわいだそう。おそらくもう一つの家族という想いを皆が持っているのかもしれない。



お母さん達の話し合い風景

現在会員のお母さん達にもお話を伺った。訓練会に通い始めたきっかけは区役所の紹介や、チラシを見て自分で連絡したりとさまざま。「どこに行きたいかわからない状態で、皆集まっている。ここで子育てや就園・就学について先輩のお母さん達に聞く」と参考になる「母子分離の時間が良い。ここでしかできない話もあるし、息抜きになる」と、訓練会の良いところを話してくれた。

■協力者さん達
子ども達にしつかり関わってくれる協力者も、訓練会を語るのに欠かせない存在だ。

めばえ会に関ったきっかけは皆さんそれぞれだ。会員のお母さんがご近所で、誘われた人もいます。



協力者さんと遊んでるよ

一番長く関わっている方に秘訣を聞くと、「子どもが可愛いから。そして、いい仲間がいたから」と教えてくれた。「悩んでいるお母さん達がここで明るく変わるのを見ると、応援したくなるの」と笑う。

■支えるあさひ活動ホーム
会場となるあさひ福祉活動ホームも大事なサポーターだ。担当職員を配置し、イベントには利用者と共に参加している。所長の水野さんは、あさひの職員になって十五年。ずっとめばえ会を見守ってきた。「訓練会に関する事で、成人の方の支援には家族や育ててきた環境が重要」とわかり勉強になっている。活動ホームで子ども達の将来の姿を見て、お母さん達が安心してくれたら嬉しい」と話してくれた。

子どもたちの笑顔にあうために

横浜市社協は去る十一月四日、学齢障害児の余暇に関するシンポジウムを開催した。昨年の検討会(※1)を踏まえ、障害児の余暇活動を地域でどう支えていくかを考えるためのものだ。民生児童委員、地区社協、ケアプラザや活動ホーム職員、障害児の家族等百五十七名が参加した。

まずは「学齢障害児の余暇の場は、まだまだ十分とは言えない。身近な地域にもっと増えて欲しい」と、障害児の家族を代表して長谷山さんが現状を訴えた。一方、地域でも徐々に自主的な取組みが行われており、ボランティアグループや主任児童委員さんの実践や、地域ケアプラザでの取り組みが報告された。市からは放課後の基幹的なサービスである「はまっ子ふれあいスクール」、

「放課後児童クラブ」などの現状も報告された。これら基幹的な市の事業の充実ももちろんだが、身近な地域に気軽に寄れる所があれば地域のひと知り合い、子ども達の社会参加も進む。参加者の民生児童委員さんからは「できるところから応援してみようと思った」など、心強い感想も寄せられ、各地域での今後の取り組みに期待したい。

(※1)学齢障害児余暇支援事業検討会 障害児が余暇を過ごす場を広げていくために、地域全体でのような支援が必要などを検討。検討会の委員は障害児の家族、区社協、ケアプラザ職員。

- シンポジスト・長谷山景子氏(横浜障害児を守る連絡協議会会長)・大森真由美氏(栄区ボランティア・市民活動団体分科会副会長)・ボランティアグループ「たんぼ」代表・小山恵美子氏(栄区民生委員児童委員主任児童委員)・一澤いね子氏(くろいびるボランティア/緑区主任児童委員代表)・生田純也氏(踊場地域ケアプラザ地域コーディネーター)・坂本耕一氏(市子ども青少年局障害児福祉保健課整備担当係長)・コーディネーター・瀧澤久美子(障害者支援センター地域コーディネーター)

防災アンケート結果報告

セイフティーネットプロジェクト横浜(以下、「Sプロ横浜」)が、平成二十年八月に九百十六の障害児者関係機関・団体(以下、「団体」)を対象に防災アンケートを実施した。その集計結果を報告する。

幅広い関心

回答があったのは四百十五の団体。

作業所やグループホーム、施設等の支援機関においては、回答者の七割八割がいつとき避難場所や広域避難場所、地域防災拠点を「知っている」と回答しており、八割弱が独自の防災訓練を実施していた。

訓練を実施していない理由には「人手が足りない」「やり方が分からない」「利用者が混乱する」等があげられており、今後取り組みのための支援が必要である。

「防災に関する不安」としては、建物や周囲の環境、備蓄・設備に関することから「通所途上など障害者が一人であると

き「家族等と離れている時の安否確認」「今の職員体制で対応できるか」「薬や医療的ケアが必要な方への対応」「避難場所での生活に適應できるか」「周囲の理解を得られるか」など、幅広い声が寄せられ関心の高さがうかがえる結果となった。

地域とのかかわり

自治会・町内会等の防災訓練に参加している団体は、回答者の約四割だった。

参加した団体の感想の多くは「いろいろと配慮をいただいております、声をかけてもらってありがたいと思う」「作業所のことを知ってもらい良い機会になった」「毎回参加して、いざという時に助けあえる関係をつくっておきたい」など、地域の方々と交流を持つことの大切さを改めて実感した、というものだった。

地域の防災訓練に参加していない理由は、半数が「訓練の日程を知らない」「誰に相談すればよいか分からない」等の情報

不足によるもので、「誘ってほしい」「日ごろから積極的に行事などに参加し、互いに慣れることが大切」と思った」といった声も寄せられた。

泉地域活動ホームがやきで障害者自立生活アシスタントを務める山内敦子さんは「障害のある人たちのみの世帯には、自治会・町内会に属している人も人とのつながりが薄い人が多いように思う。民生委員や町内会の方には、このような方々と訪問などで顔見知りになっ

て、防災訓練に誘っていただければと思う。一度の訪問では受け入れにくい人もいると思うので、繰り返し伝えていただけるとありがたい」と話す。

地域への働きかけ

障害について配慮いただきたいことや、地域の一人員として自分たちでできることも伝えていくために、訓練を企画する段階から参加したい、など積極的な働きかけを考えている団体も複数見られた。

港北区災害ボランティア連絡会の会長である井上禮子さんも「とにかく

知り合いになることが大切。積極的に参加して、困っていることを伝えてほしい」と話しており、双方からの働きかけは重要だ。

出前講座の取り組み

Sプロ横浜では、避難場所等で障害のある人に配慮していただきたいことを、地域の方々へ出向いていってお伝えするためのシナリオを開発中だ。言葉だけでコミュニケーションをとることの難しさの体験等もおりませた内容になっている。

今後、このシナリオも活用して、地域の方々へより積極的に働きかけていくことが望まれる。

セイフティーネットプロジェクト横浜 構成団体：横浜市身体障害者団体連合会、横浜市の障害者施策を考える連絡会、横浜市中心身障害児者を守る会連盟、横浜障害児を守る連絡協議会、横浜自閉症児・者親の会、横浜知的障害児連施設協議会、横浜市障害者地域活動ホーム連絡会、横浜市障害者地域作業所連絡会、横浜市グループホーム連絡会、P&A研究会カナガワ、横浜市精神障害者地域生活支援連合会、知的障害者自立生活アシスタント連絡会、横浜市、横浜社会福祉協議会協力(財)明治安田こころの健康財団



瀬谷区 「かたつむりの会」

午前の作業中、思わずいいにおいに仕事の手がとまってしまふ。それが、みんなが楽しみにしている「かたつむりの会」さんの給食の日です。

「かたつむりの会」

さんは、瀬谷でおそらくもともとも歴史のあるボランティアグループの一つです。驚くことに、もう四十年ほど前から活動されています。

当初はおむつを縫って老人ホームへお渡しする活動をしていたそうです。その後、給食サービスをするようになりました。今でこそ給食サービスをを行うグループはたくさんありますが、そのさきがけの一つが、この「かたつむりの会」さんと



彩り豊富、盛り付けも丁寧です

言っているんですよ。現在作業所で行って食べている給食ですが、とにかく美味しい！和食、洋食、中華、何だっけつくってくれます。クリスマス会では、これぞクリスマスパーティー！と叫びたくなるような料理が出てきます。

初めて経験する驚きの味、懐かしくて胸がいっぱいになる味、いろいろなあじわいのある食事に毎回出会えて嬉しくなります。

料理の腕の確かさはもちろん、そこにこめられた愛情が大きいのでしようね。

「かたつむりの会」のみなさん、いつもありがとうございます。これからもよろしくお願ひします。

ともじびの家第2作業所 所長 田中英俊



HEART MADE 通信

ハートメイドカタログ改訂

現在、ハートメイドカタログ全面改訂を進めており作業もいよいよ大詰、最終工程の作業に突入した。新カタログは、菓子類、工芸品、家庭雑貨、染物・縫製品等、八つのカテゴリーに。昨年からの急激な原材料や燃料等の高騰をうけ、特に菓子類の価格改定が目立つ。しかし、それ以上に新商品の多さに目を奪われる。

新カタログの商品の一部を紹介すると、お菓子部門での初登場は、いろえんぴつの「手作りクッキー」。ココア・ま・ピーナッツ・みそ・お茶の五種類の味があり、みそ味は珍しい存在だ。また、地域作業所第二「あいの」クッキー「メイプル」は、自然な甘みでメイプルの香り豊かなクッキーである。布・雑貨部門では地域作業所わくわくわくと地域作業所こころの「布ぞうり」を掲載。ともに初登場でサイズ・色柄の

注文も受け付けているのでありがたい。健康にも良く魅力的な商品である。コスモス蒔田の「マイ箸入れ」も初登場。長さの調整ができスプーン等も入りそのうえカバー付なので携帯に便利。繰り返し使用できるのでエコロジーにつながる。カタログに掲載してある商品は、



マイ箸でエコライフ！



健康に良い布ぞうり



新ハートメイドカタログ

各作業所がいろいろなアイデアを出して作りあげたもの。心をこめて手作りした商品。まもなく改訂作業も終了するので、改訂したあかつきには是非カタログをお手に取っていただきたい。

■問合せ
障害者支援センター
ハートメイド担当
☎045(471)0627
FAX045(471)0559
月～金 9時～16時受付

あゆみ荘 だより

横浜あゆみ荘では、次の期間を休館とさせていただきます。ご迷惑をおかけしますがよろしくお願いたします。

* 年末年始

平成二十年十二月二十八日(日)から平成二十一年一月三日(土)まで。なお、障害者手帳をお持ちの方の七分分と一般の方の四分の受付は平成二十一年一月四日(日)からとなります。

* 臨時休館(都筑ふれあいの丘設備点検のため)

平成二十一年一月二十二日(木)から一月二十九日(木)まで。
小浴室改装工事について

平成二十一年一月二十二日(木)から二月二十八日(土)まで小浴室の追い焚き機能開設工事を行います。工事の期間、小浴室はお使いいただけませんのでご了承願います。

大浴室については通常どおりご利用いただけます。

支援センター「だより」

■平成二十一年

障害者支援センター

感謝の集いのご案内

障害者団体に対し、日頃から協力・支援頂いている方々への感謝と交流の場として開催します。

障害者団体に対し、日頃から協力・支援頂いている方々への感謝と交流の場として開催します。

ご協力いただきました方々への感謝状贈呈式典ほか、団体からのアトラクションや作品展などの楽しい催しもあります。皆様のご参加をお待ちしております。

【日時】平成二十一年三月二十一日(土) 午後一時
【会場】横浜ラポール
メインアリーナ

【会費】三千元
■次の方よりご寄付・ご寄贈いただきました。温かなご好意に深く感謝し、厚くお礼申し上げます。ありがとうございます。

篠井 啓水 様
平田 泰博 様